



道徳教育の充実

桂川東小学校

校長 西園浩一

子どもたちが、生命を大切にすることや他人を思いやる心、善悪の判断などの規範意識等の道徳性を身に付けることは、とても重要です。

学校では、「きまりを守る」ことや「友だち関係」等の日常的な道徳指導はもちろんのこと、週一回の道徳の時間で、読み物資料（副読本）や、福岡県が作成した同和教育副読本『かがやき』、『あおぞら』等を活用して授業を行っています。これらの学習を通して、子どもたちに道徳的な気持ちを養い、考えたり、行動したりできるようにしていくことをねらっています。

また、本年度から文部科学省が作成した『わたしたちの道徳』を、子どもたちに配布しています。『わたしたちの道徳』は、昨年度までの『心のノート』を全面改訂したもので、子どもたちが道徳的価値について自ら考え、実際に行動できるようにすることをねらいとして作成された教材です（文部科学省のHPからダウンロード可能です）。

本校では、子どもの数が少人数である特色を生かして、縦割り活動を実施し、教師と子どもの信頼関係や子ども

「桂川っ子」の文字は、桂川中学校美術部員がデザインしたものです。



相互の人間関係を育て、一人ひとりが自分の感じ方や考え方をのびのびと表現することができる雰囲気をつくり、日常の学級経営の中でつくるようにしています。

さらに、毎日の生活や学習においても、自分の日常の姿を振り返ったり、自己目標などを意識したりすることを充実していく機会を意図的につくっています。

子どもたちが、日々の活動の中で、自分を振り返り、自分のよさについて考え、自立した生活をつくろうとすることや、これからの自分に夢や希望をもち、社会的自立に向けてよりよい生き方をしようとすることは大切なことです。

そのために、道徳の時間はもとより、学校の教育活動全体における道徳教育のさらなる充実を図っていきたくと考えています。



もつと子どもに体験の機会を

桂川町教育委員会

教育長 瓜生郁義

さて、今の子どもたちですが、正に「ネット社会の中で生きている」といえます。インターネットに比べれば、誰でも世界中の人が発信する文章や画像、動画、音楽などの情報を簡単に手に入れることができます。また自分からもそれらの情報を発信することもできます。

メールのやり取りも今やSNS（ソーシャル・ネットワークキング・サービス）にとって代わっています。SNSに登録しプロフィールを公開することでネット上の友達とつながり交流ができます。主なものとして、フェイスブック・ツイッター・ミクシィ・ラインなどがあります。そのコミュニケーションのツールを使いこなせず戸惑っている人たちも多いと思います。ラインなどを巡ってのトラブルやいじめが増えている背景に、そういうことがあるのではないのでしょうか。

桂川中学校では、スマートフォン・携帯等の生徒の所持率は半分を超え、使用時間も増えてきています。今年4月には、桂川中学校PTA総会で「携帯電話等に係る桂川中家庭教育宣言」が決議されたところです。全国学力・学習状況調査でも携帯等（スマートフォン等）を長時間使用している子どもの学力は低下の傾向を示しています。各家庭でよく話しあって適切な使用ル

ルを守るように心がけていただきたいと思っています。

多くの苦難を乗り越え、無事地球に帰還した小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクトマネージャーの川口淳一郎氏は次のように述べています。「現在の情報社会においては、現場の大事さが見落とされている。現場で見た耳聞いたりすることなくインターネットの情報だけで理解したような気になっている人が増えている。今の日本人は、現場を自分で見る前に情報を十分すぎるほど仕入れようとする。そして、いざ現場にいくと仕入れた情報と同じ事柄を確認するだけで満足してしまっているのではないかと。準備するところから新しいものは生まれにくい。事前に調べた情報を参考にしすぎる。大事なことはあくまで自分の頭で考えるということです。……また、若い世代にある程度裁量を与え、時には失敗も経験してもらうことが大事である。……」

このように現場（経験）を通して学ぶことの大切さを説いています。これからは、ゲームなどバーチャル（仮想）体験だけでなく、もつとキャンパスや登山などの野外活動をはじめ各種スポーツや読書、絵、音楽など、子どもたちが夢中になって取り組めるものから早くから出会って欲しいものだと思います。

そのためには、いろんな実体験に出会うチャンスを大人が与えていくことが大切だと考えています。